

教材 ②	<h1>ラオスの政治家になろう</h1>	
<b>目的:</b> ・文化を守る人々の苦勞を知ること、国民・県民の一員として、自主的に伝統文化を守ろうとする態度を養う。 ・支援のあり方を考える。		
<b>対象:</b> 小学校高学年～ <b>時間:</b> 45分 <b>準備するもの:</b> ホワイトボード、シン(ラオスの女性の巻きスカート)、藍染の小物 <b>学習の流れ</b>		
時間 (分)	学習者の活動	進め方とポイント
導入 (5分)	①文化を守るために自分たちがしていることをあげる 例: おけいこ・見学・体験	
展開1 (15分)	②ラオスの伝統民族衣装「シン」を紹介 ③ラオスの「ビエンゲーオ村の藍染めの布ができるまで」の動画と、藍染め工房で働く人々のインタビュー映像を見る	○映像から情報をよみとらせる。 ○初心者と技術をもった人の違いに注目させる ○違う言葉を話す人のジェスチャーから村人の思いを予想させる。
展開2 (15分)	④藍染めの布ができるまでの様子を見て、村人の苦勞や願いを予想し、ラオス政府になったつもりで、支援の仕方を考える  ⑤ビエンゲーオ村で活動する青年海外協力隊小藤田隊員(コミュニティー開発)の取り組みを知る。	○社会の「わたしたちの暮らしと政治」と関連付ける ○国と文化を受けつぐ人と、それを活用・消費する側の存在を確認し、自分の立場を考えさせたい。 ○文化遺産を守るにはお金がかかることを確認する。
まとめ (10分)	自分たちの身のまわりの文化をふり返る 紅型・焼き物・織物・方言	○しまくとぅばの本の配布目的を考えさせる。 ○社会の税金の使い道のひとつに、文化遺産を守ることがあることを確認する

### 学習後の展開

・文化の価値を知ることの大切さを実感したあと、自分たちの身のまわりにある文化を調べて、発表する。

\* 「ビエンゲーオ村の藍染の布ができるまで」の動画や工房で働く人々へのインタビュー動画は youtube で見ることができる。「2016 ラオス教材」で検索。

\* 小藤田隊員の活動の様子は JICA の HP より JICA ボランティアの世界日記ブログ「ラオスと私に会いに来て。」で見ることができる。

\* シンなどの民族衣装は、JICA 沖縄や沖縄 NGO センターで借りることができる。